

着物のまち長浜

長浜×浜ちりめん

市長 さて、昨年長浜曳山祭が、ユネスコ無形文化遺産となりました。これは、町衆が400年この祭を継



きもの首脳会議 (慶雲館)

きもの首脳会議

市長 今日は「着物のまち長浜」の首脳会議が実現して嬉しいですね。皆さんから、浜ちりめん産業や着物、長浜に対する思いを大いに語っていただきたいと思います。

承してきたことが、評価されました。私は、浜ちりめんの生産による経済力が大きな助けとなったと思っています。

吉田 浜ちりめんは、江戸時代1750年ごろ始まり、約300年の歴史があります。先人の技術革新力により、高度経済成長期まで成長し続けました。ピーク時は、185万反を生産し、まさに基幹産業でした。市長がおっしゃるように長浜曳山祭などの文化もバックアップしていました。



吉田さん

洋装が主流になってからも、人生の節目には着物を着ることが多かったのですが、近年は年に一度も着ない人も増え、厳しい状態が続いています。

浜ちりめんとしては、海外に販路

着物×わたしたち

中尾 市民にとって、着物は特別なものです。季節ごとに着物イベントを企画していますが、これだけ参加者が多いのは長浜だけでないでしょうか。



中尾さん



浜ちりめんを使ったカード入れなど

を求めたり、インテリアや小物に取り入れるなど様々な工夫をしています。

「カシヤカシヤ」と音が家の中に響きます。お蚕さんと呼ばれ、暮らしを支えた蚕が桑の葉を食べています。集落では「カタンカタン」と糸を紡ぐ音も聞こえます。かつて長浜は生糸の一大生産地でした。

その生糸は伊吹山系が蓄えた冷たい地下水、びわ湖の豊富な軟水、湖北地方の湿潤な気候などの奇跡的な出会いにより、「絹白生地の最高級品『浜ちりめん』」となりました。

生産は縮小しましたが、季節ごとに和装を楽しむイベント、祭りやオコナイで和装する機会があるなど、他と違い和装文化が世代を越えて受け継がれています。

ここでは、浜ちりめんの生産者や着物イベントの主催者と市長との対談を通じて、浜ちりめんの歴史、イベントに関わる有識者の思い、和装の楽しみ方などを紹介し、着物のまち長浜の魅力に迫ります。

平安時代には近江が上糸国とされるなど、古代から生糸の生産が盛んだったから、仮説ですが、それに触れるとDNAが喜びを感じるような気がします。

市長 DNAに組み込まれていますか。すごい意見が出ました。他の方は、どのように着物を楽しまれていますか。



佐藤さん

佐藤 着物イベントに参加されている人の表情が楽しそうで、それを見るのが楽しみです。私もスタッフでなくて、参加したいなと思うこともあります。着物を着る機会は、少ないので、私も曳山祭などで着るようになって、楽しんでいます。

モデル：2017びわ湖きもの女王
※2018も募集中。詳細は22ページ
撮影場所：安楽寺(細江町)